飛騨農林事務所の普及活動状況（飛騨版）

令和３年４月２５日現在

今月の重点活動

■ほうれんそう　農作業分業化プロジェクト（ハウスビニール張り）

飛騨地域のほうれんそうは高齢化等により、年々農業者数が減少し、出荷量が減少傾向にある。平成 29 年に飛騨蔬菜出荷組合ほうれんそう部会が実施したアンケート調査によると、全体の約４割が、ハウスビニール張りや出荷調製作業等、負担の大きな作業があるため、経営継続又は拡大が困難と回答している。

そこで、ほうれんそうに係る一部作業を分業化することで、負担軽減を図り、作付拡大を促すことを目的に、ハウスのビニール張りを高山市内の事業者に委託し、４月９日と 15 日に高山市内の農業者２名のほ場において、現地実証を行った。

【ハウスビニール張りの作業受委託の様子】

作業時間は各ほ場１ハウスあたり 98 分と 120 分を要し、ハウスの大きさによりばらつきがあった。また、強風でビニールが飛ばされることによる作業時間のロスや、農家ごとのこだわりが異なるため、作業受託者に臨機応変な対応が求められるなど、課題が明らかになった。

農業普及課では、今回の実証における課題や改善点を検討するとともに、飛騨地域のほうれんそう産地の維持・拡大のために引き続き支援していく。

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■担い手　就農に向けてバックアップ！！　～長期研修生支援会議～

新規就農に向けて、今年度から長期研修に取組む研修生に対して、高山市は４月 13 日に３名を、飛騨市は４月 21 日に４名を対象に支援会議を開催した。

研修生からの自己紹介後、農畜産公社から研修の心構えや農地の確保について、農業普及課からは就農計画作成や年間スケジュールについて、高山市、飛騨市からは各種支援策や補助事業について説明した。また、各研修生の農地確保の現状や現在の研修状況などについて情報共有した。研修生は１～２年間の研修後、トマトや畜産での就農に向けて、指導農業士等受入農家や施設での実践研修や、11～２月開催の「飛騨就農支援塾」でＧＡＰや土壌診断、病害虫対策、農産物流通など栽培技術や経営に関する知識の修得を目指していく。農業普及課では研修生の状況確認を随時行うと共に、飛騨就農支援塾等の企画・運営に主体的に関わって支援する。

【就農に向け目標を語る研修生】

■認定農業者　新たに 24 名が認定農業者に

高山市では、今年度新たに 24 名の認定農業者が誕生した。４月 15 日に開催された高山市農業経営改善計画認定書授与式には９名の経営体が出席し、市長から認定書が授与された。

新規認定者の営農類型は、トマトやホウレンソウの施設園芸がもっとも多く、エゴマ、マコモ等の工芸作物（加工を含む）や露地野菜、水稲と幅広く認定されている。農業普及課では、市やＪＡと連携して、経営改善計画の実現に向けて支援を行っていく。

【市長から認定書を交付】

■夏秋トマト　**新規就農者を対象とした重点支援開始**

飛騨地域の夏秋トマト栽培では、４月中に育苗が開始される作型が多く取り組まれており、本年度から栽培を開始する新規就農者８名も本格的な作業に取り組んでいる。本年度は雪解けが早く、作業は順調に進んでいるが、経験の少ない新規就農者は多くの課題に直面しているのが現状である。

農業普及課では、作業以外にも新規就農者の経営安定にむけた技術支援を重点指導事項に設定し、定期的な巡回活動を実施することとしており、新規就農者の様々なニーズにきめ細かく対応していく予定である。

【育苗時の温度管理について説明】

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■スナップエンドウ　**現地研修会を開催（吉城地域）**

飛騨地域では数年前からスナップエンドウを各地域で栽培しており、他産地からの出荷量が減少する期間（５～６月）に出荷が可能なため、安定した単価で取引されている。

４月 12 日､吉城蔬菜出荷組合露地部会豆部のスナップエンドウ現地研修会が開催され、生産者 16 名が出席した。

研修会では、ほ場主である生産者から栽培状況と霜害等の対策について説明があり、春先から平年を上回る気温が続いていたことから順調な生育となっている。農業普及課から今後の栽培管理について指導を行い、追肥の重要性について指導するとともに、再度霜害対策の徹底を図った。

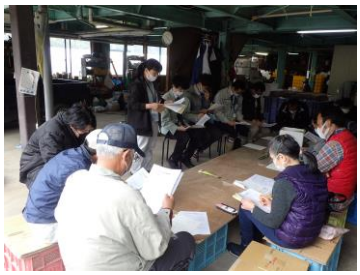
【研修会風景】

農業普及課では、今後も栽培指導を継続しスナップエンドウの安定生産を支援していく。

■アスパラガス　**目揃え会および栽培研修会を開催**

４月 16 日､飛騨市アスパラ研究会が春芽の本格的な出荷に向けて春芽目揃え会と栽培研修会を開催した。

当日は、９名の生産者と市場関係者、飛騨市役所と農業普及課が参加し、今年の栽培管理や出荷について確認を行った。市場関係者からは、関東圏からの出荷も少なく単価は高く推移しているとのことであった。農業普及課からは、今後の管理や防除暦について説明を行った。生育は、暖かい日が続いているため、昨年より早く進んでいる。



【今後の管理について説明】

農業普及課では、今後も飛騨市アスパラガス研究会と連携しながら栽培研修会や巡回を実施し、高品質なアスパラ生産を支援していく。

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■飛騨市水稲生産者　美味しいお米養成講座を開催

【スライドを使って講演】

飛騨市は４月 17 日、市内の水稲生産者を対象に「美味しいお米養成講座」を開催した。飛騨市は「飛騨こしひかり」のブランド力を強化するため、更なる食味の向上に取組んでおり、従来の水稲青空教室を拡張して３回にわたる「美味しいお米養成講座」の開催を予定している。

第１回目となる今回は、古川町と神岡町の２会場で開催され、60 名程の水稲生産者が参加した。農業普及課では、ＪＡひだとともに講師を務め、美味しいお米づくりの基本について講演を行った。参加者からは、わかりやすい内容で参考になったとの声が多く聞かれ、好評であった。第２回目は、６月下旬から７月上旬頃が予定されており、今回以上に充実した講座となるよう支援を継続していく。

■果樹　ＪＡひだ果実出荷組合協議会役員会が開催される

【役員会の様子】

ＪＡひだ果実出荷組合協議会では、役員会を４月 20 日に開催した。

役員会では今年度の事業計画として、ＧＡＰの推進や災害対策資材の普及推進、販売面では輸出に向けた体制作りやＰＲ事業等について、取り組み内容の確認や意見交換が行われた。農業普及課は、今年度の普及指導計画の概要や現在のモモ・リンゴの生育状況を情報提供した。

今後も当課は、果樹の安定生産に向けた技術普及や販売ＰＲにおいて、関係機関との連携を通じた支援を継続する。

■夏秋トマト　高山蔬菜出荷組合トマト部会　研究班活動検討会

【研究課題について検討】

高山蔬菜出荷組合トマト部会研究班では、夏秋トマトの栽培に関する課題を取り上げ研究活動を展開する部会内組織である。４月 21 日、本年度の研究課題を決定することを目的とし、活動検討会をＪＡひだ高山営農センターにおいて行った。

検討の結果、産地で大きな課題となっている栽培品種の選定試験を中心に取り組み、収量、生育、食味について調査することとなった。

普及課からは、試験品種の特性（栽培上の留意点）について説明するとともに、その他の課題としてキルパー液剤による古株枯死処理（前作の病害対策）について提案し、実施することになった。今後、研究活動の支援を行っていく予定である。